

科目名	現代社会と科学技術		
教員名	木村 明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2021年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における科学技術の発展や役割について理解できる。</li> <li>・教育現場における科学技術の利活用について調べ、教育現場に科学技術が導入されることによる効果について考えることができる。</li> <li>・現代社会・教育現場における科学技術について理解したことや考えたことを基に、文書やプレゼンテーション資料などに表現することができる。</li> </ul>		
授業概要	<p>現在の教育現場では、児童・生徒が主体的・対話的で深く学ぶことが重要視されている。児童・生徒がこの様に学ぶためには、それぞれが問いをもち、その問いの解決に向けて情報を集め、集めた情報を関連付けたり、多面的に捉えたりしながら解釈し、新しい価値を創造するといった流れで学びを進める必要がある。</p> <p>本講義では、「現代社会」「教育現場」をキーワードに、代表的な科学技術を取り上げ、それらの科学技術がどのような働きをし、どの様に活用されているのか、また、それらをどの様に活用することが豊かな生活に繋がるのかについて考え、表現する。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代社会における科学技術とは 問いをもち、情報を収集する</p> <p>第3回 現代社会における科学技術の役割 科学技術の仕組みや役割について調べたことを基に考察する</p> <p>第4回 科学技術との付き合い方 科学技術との付き合い方について意見を交流する</p> <p>第5回 教育現場における科学技術とは 教育現場で活用されている科学技術についての情報を集める</p> <p>第6回 科学技術を取り入れた授業とは 科学技術を導入した授業についての情報を集める</p> <p>第7回 科学技術と情報活用能力 科学技術の導入と情報活用能力について考える</p> <p>第8回 情報活用能力の発揮と学習過程 科学技術を使いこなし、主体的に学ぶ授業展開について知る</p> <p>第9回 科学技術を活用した授業づくり① 科学技術を取り入れた授業を体験する</p> <p>第10回 科学技術を活用した授業づくり② 科学技術を取り入れた授業をつくる</p> <p>第11回 科学技術を活用した授業づくり③ 科学技術を取り入れた授業をつくる</p> <p>第12回 科学技術を活用した授業づくり④ 科学技術を取り入れた授業をつくる</p> <p>第13回 成果交流 プレゼンテーション又は模擬授業</p> <p>第14回 成果交流 プレゼンテーション又は模擬授業</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業方法	どの時間においても①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現の流れを基本として講義を展開する。		
アクティブラーニングの視点	<p>日常的に活用している科学技術、教育現場で活用している科学技術について問いをもち、主体的に情報を収集する。そして収集した情報を分類し、自らの考察を踏まえて文書資料やプレゼンテーション資料、学習指導案等を創造する。</p> <p>また、創造した資料や学習指導案を基に、自らの主張を他者に伝えたり、模擬授業を実施したりして、本講義で学んだことや考えたことを表現する。</p>		
授業外学習	<p>授業内で取り上げたトピックに関して、日頃の生活で常に興味をもち、主体的に情報収集を行うこと。</p> <p>授業づくりでは、グループで協力しながら、一つの授業について考えるため、グループごとに授業づくりについての準備や相談をすること。</p>		
教科書	木村明憲「単元縦断×教科横断」さくら社 2020年		
参考書	AK-Learning サイト <a href="https://www.ak-learning.info/home">https://www.ak-learning.info/home</a> 授業中に適宜紹介する。		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に対する授業ごとのレポート 60%</li> <li>2. 授業づくりで作成した資料及び学習指導案を基にしたレポート 40%</li> </ol>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場で児童が一人一台の科学技術（タブレットPC）を活用して学ぶ授業を3年間実施した者が、その経験を基に科学技術を活用した講義を、当時の写真や映像を紹介しながら指導する。		